

ろぎにさへおとりて、こゑたてぬもあれど、此むしはやむごとなきさちあるものにて、宮のさうにて、何くれの御つばねにも、御くしげの中、白ふんの中にまろびて、からは人をさへ、野べにすてためるならひなるに、十とせはたとせの後までも、御もの、中につ、ませおかせ給ふ事よ、がうやうのものに雲井にまうのぼる、昔のかしこき人は、草を耕して、位にのぼりしをさへ、めづらしうありがたき事にも、このするに、これはやうかはれり、

叩頭蟲

〔倭名類聚抄十九〕叩頭虫 傳咸叩頭虫賦云、虫之細微者、觸之輒叩頭叩頭虫、和名沼加豆木無之。

〔箋注倭名類聚抄八〕太平御覽引叩頭蟲賦叙云、叩頭蟲、蟲之微細者、然觸之輒叩頭、中李時珍

曰、蟲大如斑蝥、而黑色、按其後則叩頭有聲、今俗呼米春蟲、或曰爪彈、

〔類聚名義抄十〕叩頭虫 ヌカツキムシ

〔書言字考節用集五〕叩頭蟲ヨネツキムシ

〔東雅二十〕叩頭蟲 ヌカツキムシ 略 中

ツクとは著也、額の地に至るをいふなり、今俗にハタオロムシともいふ是也、

〔和漢三才圖會五十三〕叩頭蟲 和名沼加豆木無之 俗米踏略 中

按狀如吉丁蟲、而小純黑、頸下背上有折界、每點頭作聲音、如言保知保知、其貌似踏確者、故俗曰米踏蟲、

〔重修本草綱目啓蒙二十八〕蟲蟲 略 中

叩頭蟲 ヌカツキムシ 和名 キコリムシ 古歌、播州、雲州、石州、備後、防州、作州 キ、ハ、リ、ム、シ 大和本草 カ、ネ、タ、

キ 略 中 コメフミムシ 讚州 コメツキムシ 同、上、香、西、阿 ツメハジキ 筑前 略 中 此モ木蠹蟲ノ

〔枕草子三〕むしは

羽化スルモノアリ、其品數多シ、